



# あるさとの音話

## いけにえ渦の毒蛇<sup>②</sup>

おあじと別々に一夜をあかした6人は、この出来事を国元へ知らせようと引き返していきました。

柏原まできたとき、その中の1人が「おあじ1人をさせにして、私たちだけが国元へはもどれない。いつそ私たちも死にましょう」といい、6人は、相談して、柏原の沼へ身を投げて死んでしまいました。

一方、おあじはすでにかくごし、「わたし1人が死ねば、多勢の人が助かるのだ」と心に思いました。

そのころ前田村に保寿寺（現在上田端）というお寺があり、その芝源和尚は、徳川家康から、「その毒蛇を退治せよ」と命令されました。

そこで芝源和尚は、100人の僧をあつめて、三ツ股渦の西岸にある水神の森で、毒蛇を退治するお経をとなえました。



【保寿寺に保存されている大蛇のうろこ】

6月28日のまひるどきです。  
空は一点の雲もなく晴れわたっています。

お坊さんたちのお経の声は、鏡のような水面をすべて四方にひびきます。南側の岸には、白装束のおあじが小舟にのって、ジッと芝源和尚の合図をまっています。

お経の声はだんだんと熱をおびて、水底深く沈んでいる大蛇にも聞こえるかと思われました。

とつぜん、渦の水面が波立ってきました。そして大きなうず巻ができ、急に空が雲り、やがて大雨とともに大地もさけるかと思うような雷がとどろきました。芝源和尚は、一段と声をはりあげてお経を読みました。

三ツ股渦の水は、数10㍍の高さにのぼり、人々は目をつむって地にふせました。

まもなく渦はもとの静けさにもどって、何事もなかったようです。

ふと見ると芝源和尚のそばに、大蛇のうろこが5~6枚散らばっていました。

お坊さんたちの力で命が助かったおあじは、6人の友達の後を追って柏原まで来ましたが、友達がみんな死んでしまったことを知りました。



【阿字神社】

余りの悲しさにおあじも、同じ柏原の沼に身を投げて死んでしました。

吉原宿の人たちは、おあじの靈をなぐさめるため、鈴川の砂山に阿字神社をたてました。



高田さかさん  
(89歳・鈴川4)

ここは砂山といって、昔は家が5~6軒しかなくて、水も下から汲んできたんだよ。

三ツ股渦は、大きな渦になっていてとても深く、コイがたくさん釣れた。

阿字神社のお祭は、毎年10月ごろ村の青年が集まってやったんだ。

西隣りの前田新田部落には、泳いで渡ったりしたもんだね。

## 中央病院を 禁煙にして

〔こえ〕 病院待合室でタバコを吸う人が多く、病気の人などへの影響は大きいと思います。特に病院は、健康について神経が細かいことが望ましいと思いますので禁煙にしたらどうでしょうか。

（伝法・○さん）

〔こたえ〕 市民の医療にたずさわる病院として喫煙については、常に心を配らなければならぬことです。中央病院でも前から検討していましたが、とりあえず南病棟の内科・小児科の廊下などを禁煙区域とします。また玄関の待合ホールでの喫煙については、他人の迷惑にならないよう協力をお願いするなどの措置を図っていきます。

（市立中央病院）

